

結了

券

淨寫山吉

校合

券

内名簿
券

發付

券

長官

次官

局長

主査

券

属僚

参査

券

七月二日

全國石炭山個數表取調書別紙直工部省より同付統計
課市古附表等何也

業

普

一〇〇號

山

官行鑛山石炭表工部省より差出、府及下付先

昭和五年七月

由軍一

後行部長

四十一

海軍省

0108

日記

送第一二〇号

全國石炭山之個数等詳細取調可及待廻方普
其第二。考つて待照會之趣致承知候則千席
来尔之離飛。候。別紙取調差進候也

工部卿代理

明治十六年七月三日 参事院議長山縣有朋

海軍卿川村純義殿

追々民坑之分。過日席有旨負出頭之節。悉細之
務官より申請置候也

普第一〇〇號

四十二



0109

明治十五年十二月三十一日調 官行鑛山石炭表

符	國名	郡名	町名	品位	着手	坪數	一ヶ年採出高	借區官廳名	使役坑名	延續	一ヶ年入費
イ	筑後	三池	三池	三池	明治十六年六月	三池	三池	三池	三池	三池	三池
口	羽前	曹州	油戸	中寺	明治十六年六月	曹州	曹州	曹州	曹州	曹州	曹州
計	合	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計

炭坑経歴

イ傳記ノ確徴トナスキモノナシト雖氏土俗ノ碑ニ傳フル所ニ據ルハ文明元己丑年正月三池郡縮荷村ノ農夫傳治左衛門ガ突見ニ係レリト云フ固リ連脈ノ炭層ナレ氏関突數坑ニ涉リ然レ氏之ヲ大別スルハ生山、平野山、縮荷山、ノ三所トス而シテ尔後所有兩属ニ分レ生山縮荷ノ二山ハ元三池藩主立花出雲守ノ領地ニシテ則縮荷山ハ文明元己丑年生山ハ嘉永度末年ノ突堀ニ係リ平野山ハ元柙川藩主立花飛騨守ノ所領ニシテ

其家臣小野隆基ナル者ノ米地ニ属シ享保六年五月十日ノ開坑ニ
係ル然ルニ両所有者ノ内動モスレハ紛争ヲ生シ到底而立ニ難キノ勢ナ
ニ由リ明治六年五月之ヲ官ニ没入シテ同年八月初メテ全山官行ニ帰シタ
リ尔来採堀ノ方法ヲ改良シ漸次盛大ノ域ニ進ムノ景況ナリ

口油戸炭山ハ明治元年王政維新ノ際庄内藩主酒井家ノ臣中村次郎兵
衛ナル者創メテ試堀シ採掘ニ堪ユヘキヲ認メ堀採シテ以テ當地ノ軍需ヲ補フ
タリト云然ルニ幾何ナラスモテ賊徒平定ニ續テ廢藩置縣等ニ依テ
坑業モ全絶ス其後明治九年越後ノ國人星野竹次郎借込開堀セシ
ト蛭氏振起セシテ翌十年鶴岡ノ士族川上和義譲リ受ケ業ヲ興
シ多少ノ出炭ヲナセシ所釜石佐渡兩鑛山分局ニテ多量ノ石炭ヲ要
スル為メ借込人ハ亦談ノ上起業費ヲ以テ官採ノ事ニ決シ明治十二年六
月鑛山分局ヲ置キ同十五年六月マテ三ヶ年ヲ起業ノ期トナシ坑ノ内外ニ於
テ將來ノ便益ヲ得キ諸工事ヲ專ラシニ稍シ整頓ヲ告ルニ至リ同年七

月より營業に終り採炭ヲ旨トスルニ及リ然ルニ一時妨害石ノ突出セシ爲メ
出炭ノ量ヲ減スルコトアリト云ク現今ニ至リ是等ノ困難ヲ經過シ
漸次炭層モ確定シ炭質ノ善良ナルヲ見ルヲ以テ今後大盛スルハ
期ミテ待ツヘキノミ

淨寫

校合

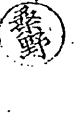


養秀

登



後付



長
官

改官

局長



主査



属僚

参査



五月廿九日

別紙全国在席表取調方工部省ハ少照倉庫ニ付テハ
一通統計課ハ市指令ニ依テ取調可也

市指令案
書面府縣達ノ義ハ詮議ニ及ビ難ク工部省ハ別紙案之
通照電ニ及ビ置候事

明治十六年五月廿九日

0114

澤田

校令

田名滿
登録

發付

長官

次官

局長

主任

属僚

参査

四月廿一日

別紙統計課申全国石炭表并河海事業人負表

及蒸氣工場表ノ儀ハ向課立案ノ通工部省少照

會ニ付縣ノ通達ニ依リテ予檢課振興局ニ

年次石炭表ノ義ハ予参考上ノ端ニ至リテ細密ニ

モリニ至リテ殊ニ都府ノ予照會ニ依リテ得共切年次表ノ表

方ニ容易ニ表裏平一ナルニ至リテ得共切年次表ノ表

調ホテモ他日有事ノ日ニ因リテ予照會ニ依リテ

之ヲ妥若ク八年ノ予調出ヲ要スルハ甚益ニ爲ル

四十六

0115

江 戸 幕 府

ト被_レ為_レ統_レ計_レ無_レ差_レ者_レハ先_レ以_レ試_レミ_レ數_レ個_レ也_レ然_レテ_レ將_レ又_レ河_レ海_レ之_レ業

人_レ負_レお_レ如_レキ_レニ_レ至_レテ_レハ_レ數_レテ_レ條_レ系_レ不_レ可_レ欠_レモ_レト_レモ_レ不_レ能_レ及_レ

照_レ然_レ表_レ如_レキ_レハ_レ既_レニ_レ者_レ有_レ縣_レ也_レ然_レル_レニ_レ以_レテ_レ予_レ意_レアル_レ以上_レハ_レ府_レ縣_レニ_レ在_レテ_レ

ハ_レ地_レ方_レ手_レ數_レヲ_レ相_レ掛_レリ_レ可_レ申_レ其_レノ_レ手_レ數_レヲ_レ費_レサ_レズ_レル_レ丈_レ商

者_レニ_レ在_レテ_レ知_レ能_レ可_レ者_レ之_レ類_レ高_レ考_レ者_レノ_レ正_レ郡_レ者

ヲ_レ管_レス

0116

後分府より仰せ

全國石炭其他調査の案を呈上申

全國石炭の調査は河海上の調査者又
負及び急務機械の調査は平時下量
海軍造船部、軍海軍の調査は豫の調査
調査は軍事、海軍の調査は豫の調査
勿論既、徴費の調査は豫の調査
尤要用と事、其の調査は官費の調査
と海軍の調査は豫の調査
此れ上申は也

十六年四月廿日

統計課長

普第志子〇〇號

四十七

四十七



0117

海軍軍令部事務官の事務

海軍卿川村純義殿

追々五部省及府縣より調製せる乙と申す
以て照統計の上進進洋しては旨直に西條傳
以て笑進進者なる將又商船漁船海川小
廻船調製せる乙と申す西條傳
以て是之に徴其軍務修例等々乙と申す
又一面に於て軍務局に於て乙と申す西條傳
其乙と申す乙と申す乙と申す乙と申す
乙と申す乙と申す乙と申す乙と申す



0118

普第一卷。〇。號三

工部省法政司官

全國石炭山の個數及著子未著子の官
私採の爲多き區子於官者未著子と要
用する子の數を以て難航に徴し以て裁
方なる尤も多し其の不測なる者多し
省の法政司官に於て其の名稱の形を
未成なるは其の及る處の也

十三年四月廿日

海軍卿

工部卿

0119

四十八 海軍省

海軍

炭坑經歷

イ 明治何年何月何日何村何某炭見試掘願出何年何月ヨリ惜區何年何月何某ニ
 譲リ渡シ何月ヨリハ更ニ掘採ヲ法ヲ改良シ現今ニ至リ一層良好ノ品位トナル云々
 其他記載スヘキ條件ハ
 可成丈委悉スルヲ要ス

ロ

ハ

ニ

ホ

ヘ

0121

府縣御達察

府縣

全國河海立官並業者後史并著意其採
械橋個數共首務失主考上要用付來
此六月三日調董及別紙雖航做い
此載之同上自限了面出之申
三年

明治十六年七月

海軍卿

0122

明治十六年六月十日 河海營業人員表

府縣名

國郡名
町村名
士族
平民
漁者
船東渡世
河海雜業
族籍別計
人員合計
内
譯
業者
業者
常住
寄留

何國郡
何町村
士
平
三
五
三
十一
七十一
五十
二十一
六十一
十一

合計

五十一

五十一

0123

記載方心得

一 人員ハ滿十五歳以上滿五十歳ニ至ルノ男ヲ掲クベシ

一 漁者ハ河海ヲ論セス常ニ漁業ヲ基トシ家産ヲ營ムモノト

虽氏漁農兩業相半スルモノハ漁者ノ部ニ算入スヘシ以下二項モ

之ニ準ス

一 船乗渡世トハ人蓄物品等ノ回漕ヲ業トスルモノ

但共同運輸會社又ハ三美會社等ノ如ク社中ニ雇役セラル、

モノハ之ヲ除ク

一 河海上雜業トハ前書兩項ノ外海苔混布又ハ藻類等ヲ拾採シ

其他雜業ニ從事スルノ類

一 出稼キノモノハ現在ノ地方ニ於テ取調寄留ノ部ニ記入スベシ

記載方心得

一 町村内ト雖氏数ヶ呀ニ分立シアルモノハ必ス一ヶ呀一欄毎ニ區別スヘシ

一 一ヶ呀内ト雖氏使用名稱ヲ異ニス(紛績、製紙、製織等ノ如シ)ルモノハ區別方

前項ニ準ス

一 馬力ノ計算方一ヶ呀内ニ教確アルモノヲ合記スベシ

一 薪材ヲ以テ石炭ニ換ヒ焚用スルモノハケ年平均費定高欄内ニ何

材何薪何百把又ハ何方付ト記スベシ

一 数名連合惣立ニ係リ社名アルモノハ社名兼頭取々締等ノ内ニ

テ一人ノ姓名ヲ官廳或ハ營業人姓名欄内ニ掲ケ社名等ナキ

モノハ頭ヲ立チタルモノ、姓名及外何名ト記スベシ

一 入費トハ工場ヶ呀内ニ消費スルモノヲ指スヲ人員給料薪炭油諸器

械修繕等ヲ始メ諸雜費ニ至迄合算上記記載スベシ